

男女のよりよいパートナーシップを

ゆうCan

杉並区立男女平等推進センター情報誌

2015年

54号

仕事と家庭生活、どちらも大切に！ 私の思い

女性が子供を育てながら仕事を継続していく上で、気がかりなことは仕事と家庭生活の調和、ワークライフバランスをどうとっていくかということではないかと思います。

仕事に力を注ぐ一方で、子供が順調に成長してくれているか、

限られた時間の中で家族とふれあう時間を作るにはどうしたよいかなど、

様々な課題や悩みを試行錯誤しながら解決し、生活を楽しんでいらっしゃる方が私達のまわりにはいらっしゃると思います。

今回は、区内にお住まいのお二人の方に、「仕事と家庭生活、どちらも大切に！ 私の思い」というテーマで、ご自身の経験や思いを書いていただきました。

私が再就職を真剣に考えたのはパートナーの転勤で名古屋に転居した時でした。10年間働いた商社を結婚退職し、その後長男、長女を出産。長女出産後6か月で名古屋に転勤となりました。この名古屋での最初の1年がこれまでの子育て生活の中で最も苦しい時期でした。知り合いもいなくて、大人との会話はほとんど夫だけ。悶々とした日々を過ごしていました。そんな時に、名古屋市長の女性の再就職講座の受講をきっかけに男女共同参画活動のNPOの方に会い、子どもたちを預けてNPOの仕事を週2回することになりました。社会とのつながりを得て自分の居場所ができたように感じ、働き続けたいという思いが強くなりました。

東京に戻ることが決まってからも働こうと思いましたが、東京に住民票がない状態では子どもの預け先確保もままならず、転居後すぐの就職はあきらめ、日本女子大学のリカレント教育課程に入学しました。実践的な技能を身につけさせてくれる再就職プログラム

私の経歴



仕事と家庭生活、どちらも大切に

深井 希代さん

で、就職先の情報も得られることが魅力でした。受講した女性には高いスキルを持ち、意欲的。このような女性が社会で活かす場がもっとないのかと思いました。

1年間の受講後、大学研究所の非常勤職員として数年働いていましたが、やはり正社員として責任をもって仕事をしたいとの思いが強く、再びリカレント教育課程から現在の製造コンサルティング会社を紹介していただき4年が経過しました。

現在の会社

社員数名の会社ですので、総務、経理、技術サポート等なんでもしなければなりません。その都度勉強して色々なことを知ることも充実につながっています。また、仕事をすれば場所も勤務時間も問わないという社長の考えのおかげで、必要な時に家族へ



ご参加ください!

男女平等推進センター 講座

応募方法など詳しくは、広報すぎなみ・杉並区公式ホームページで随時お知らせします。

講座名	企画運営団体	日程	会場
すぎなみパパの学び場	creo(くれお)	11月29日(日)午前	あんさんぶる荻窪
		12月12日(土)午前	高井戸地域区民センター
		1月24日(日)午前	阿佐谷地域区民センター
防災・減災 講座 女性・男性 みんなの視点	杉並女性団体連絡会	12月5日(土) 午前・午後	あんさんぶる荻窪
これからの人生を自分らしく生きる!	NPO法人 朝日カウンセリング研究会	10月8日(木)午前	あんさんぶる荻窪
		11月5日(木)午前	
		12月3日(木)午前	
☆杉並にゆかりの女性シリーズ 12 樋口一葉	杉並の女性史研究会	9月26日(土)午後	産業商工会館
		10月17日(土)午後	
☆自分らしい働き方セミナー	株式会社キャリア・マム	9月1日(火)午前	男女平等推進センター
		9月15日(火)午前	
		9月25日(金)午前	

(注) ☆印の講座は一部参加募集が終了しているものがありますのでご注意ください。講座に関するお問い合わせは下記【問合せ先】へ

図書コーナー



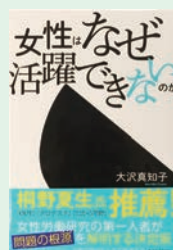
男女平等推進センターでは男女共同参画に関連する書籍を揃えています。貸出しも可能です。手にとってご覧ください。御来館をお待ちしています。

ご活用ください!

『女性なぜ活躍できないのか』

新着図書

[著] 大沢真知子
東洋経済新報社



女性が働き続けられないのはなぜなのか、女性の活用を妨げるものは何か、企業や国の両立支援はなぜうまくいかないのか? 日本で女性が活躍するために何が必要かを提言しています。

『LGBTってなんだろう? からだの性・こころの性・好きになる性』

新着図書

[著] 薬師実芳 笹原千奈未 古堂達也 小川奈津己
合同出版株式会社



生きづらさを抱えているLGBTの子どもたち、LGBTに理解がある大人の存在は子どもたちの安心につながります。また、身近に一人でも相談できると思える人がいることは子どもの力になります。



ゆう杉並 杉並区立男女平等推進センター



〒167-0051 杉並区荻窪一丁目56番3号 TEL.03-3393-4410

■開館時間
9:00~17:00

■休館日
月曜日(祝休日の場合は、翌日)
12月28日から1月4日まで

- 関東バス 荻窪駅南口発
シャレール荻窪行→「シャレール荻窪入口」下車→徒歩5分
- 杉並区南北バス「すぎ丸」けやき路線
JR阿佐ヶ谷駅←→井の頭線浜田山駅
「善福寺川緑地」下車→徒歩10分
- 東京メトロ丸ノ内線
「南阿佐ヶ谷駅」下車 徒歩15分
※駐車場はありません。
男女平等推進センターへの道順はこちらも参照してください→



杉並区立男女平等推進センター情報誌「ゆうCan」第54号 平成27年9月 発行:男女平等推進センター
【問合せ先】 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 杉並区 区民生活部管理課 男女共同・犯罪被害者支援係 TEL: (03) 3312-2111 (代)

のケアもしつつ、仕事ができる環境を
いただいています。画一的な勤務時間、
形態に縛られず柔軟な働き方ができる
組織が増えれば、子育て、介護など何
かしらのケアを担っている方も仕事を
続けやすく、また眠っている資産を活
かす場も増えると思います。

ワークライフバランス

パートナーは2年前から九州に転勤
になってしまいましたが、今回は単身
赴任してもらいました。一緒に暮らし
ていた時は、ほぼ深夜帰宅で、平日の
家事や子どもの送迎などはすべて自分
でしなければなりませんでした。休
日はパートナーが家事や子どもの世話
をしてくれたので、一人で休めるとき
もありました。今はそうした時間がほ
とんどなく、気が休まる時間がない状
態になってしまっています。

ワークライフバランスが大切とい
ますが、本人のWLBのみならず、や

はり夫婦で助け合えるのと、そうでな
いのでは大きなハンデがあるように
思います。

社会に望むこと

ひと・まち・しごと創生法が昨年11
月に施行され、女性活躍推進法(女性
の職業生活における活躍の推進に関す
る法律)も来年4月に施行されますが、
人口減少、生産年齢人口の減少を補っ
て女性が活躍していくためには、男性
の仕事のありようも含めて見直しが必

Kiyo Fukai



深井 希代さん

大学卒業後、10年間の商社勤務
後ご結婚で退職。2007年夫の転勤
先の名古屋で週2日勤務から開始
し、転居、転職などを経て2012年
1月より現在の勤務先で正社員とし
て採用され現在に至る。ご家族は
ご夫婦、中学生と小学生のお子さ
んと4人家族です。

2012年より現在に至るまで「杉
並区男女共同参画推進区民懇談
会」の委員を務める。

進める必要があるように思えてなりま
せん。

再び仕事に戻りたいと 考えているみなさんへ

私は名古屋で出会ったNPOで「一
足飛びに正社員になろうとしないで、
まずはできるところから一步一步。女
性のチャレンジは身の丈チャレンジ」
というアドバイスを胸にここまで歩ん
できました。子どもの成長に合わせて
徐々に勤務時間を長くし、自分にも家
族にも大きな負担なく仕事時間、仕事
の幅を広げることができるようになり
ました。

まだまだ女性の雇用事情は厳しいも
のがあると思いますが、それでも女性
の力を活かそうという会社もたくさん
あると思います。今すぐ働くことや、
今すぐ目標にたどり着けなくても、数
年後、自分の希望に近づけるよう動く
ことによって必ずよい出会い、チャン
スが生まれると思います。

仕事と家庭生活、どちらも大切に



田口 尚美さん

家族とともに成長

私が一番大切にしているのは、もち
ろん家族であり家庭生活です。乱暴な
言い方かもしれませんが、仕事は私の
代わりに誰か他の人が担うことができ

すので家庭生活とのバランスが取りや
すかったと思っています。

我が家では基本的に私が家事を担
い、子供たちを遊びに連れ出すのは夫
です。古い考え方かもしれませんが、
私は結婚当初、家事は女性の役割とい
う認識をもっていました。

子供たちが成長し、私の仕事が忙し
くなると徐々に夫が家事を手伝ってく
れるようになりました。今では私の帰
宅が遅い日には夫が洗濯物を取り込ん
でたたむことや子供たちの夕食の準備
と後片付けをしてくれるのでとても助
かっています。

我が家もこの先家族の状況が変われ
ば新たにバランスを取り直していかな
くてはならないでしょう。その時も
きつと、家族が一番大事！という思い
は変わらないと思います。

職場の理解に感謝、 仕事への思い

私の仕事は営業職です。お客様の元
に足を運び、直接会ってご契約いただ
き、その後のアフターフォローもずつ
と自分で担います。今の時代はイン
ターネットやメールなどで早く効率的
にできることが増えましたが、それで
も、対面するこの仕事の大切さを私は
常々感じています。契約という目に見
えない物だからこそ、担当者の顔が見
える間柄や長く続く信頼関係が大切だ
という思いがあるので、この仕事に誇

Naomi Taguchi



田口 尚美さん

平成10年に現勤務先に入社、以
来、今日まで継続して同じ会社に
勤務され、現在は組織長、組織長
会長として後輩の指導育成にもあ
たられています。ご家族はご夫婦
と小学生のお子さんお二人の4人家
族です。



楽しみです。公私混同と言われるか
もしれませんが、何をしていても自
分が楽しいと思える状況こそが私に
とってハッピーなことですし、充実
した時間を過ごせたと感じることで
できるからです。

働く女性が増えて、PTA活動も
これまでのやり方ではうまく回らな
い部分が出てきているのも事実です。
役員になるのは避けて通りたいと思
われたり、負担ばかりのマイナスな
イメージがつきがちですが、親同士
が協力して子供たちのことを考える
PTA活動にはそれなりの意味があ
ると感じています。できるところで

家庭も仕事も大切に

関わりながら、時代に合わせて変えた
方がうまくいく部分と、変えずに引き
継がなければならぬ部分を見極め、
次に繋いでいくことが大事だと思っ
ています。

女性が社会で活躍できる場が増えて
いくのはとても喜ばしいと思います。
だからこそ、温故知新と言えば大袈裟
ですが、家庭での女性の役割も大切に
しつつ仕事とのバランスをどのように
取っていくのか、家族や職場で気軽に
話し合えることが女性の活躍の下支え
となるように思います。

そして、女性が社会に積極的に参加
するようになって、私には、古くか
ら続いてきた日本の家族の在り方、男
は外で働き女は家庭を守るという形を
全否定しないでおきたいの思いがあ
ります。男性も女性も置かれた立場、
状況や環境によって臨機応変に対応す
ることで無理のないワークライフバラ
ンスが達成できるのではないかと考え
るからです。

PTA活動においても共に活動する
人同士、目的に向かって協力してい
くことが大切なことだと思います。

女性が継続して仕事をし、社会参加
をしていく上で、家族はもとより、職
場の上司や同僚の理解・協力は欠かせ
ないものだと思います。